

きらり治田



千曲市立治田小学校 学校便り
さよなら 2018 年 12月号
2018/12/26 (文責:塩野入崇)

これからの自分を考えよう！～

85日間の2学期も終わりました。夏の運動会練習から冬の縄跳びまで、この2学期で3つの季節が訪れました。2018年も終わり、いよいよ2019年が始まります。冬休みはそんな節目の休みでもあります。

(写真を掲示)さて、この方を知っていますか？

児玉幸多(こだまこうた)さんです。治田神社の神主さんの家に生まれ、学習院大学の学長も務めました。



稲荷山学校跡に書かれた児玉幸多さんの書
「われら ここに 楽しく 学びたり」

児玉幸多さんは、「日本の近世農村・交通史について最も権威のある人」と呼ばれています。また、今の天皇や皇太子にも関わりがありました。学習漫画「少年少女日本の歴史」などの編集なども監督しました。

児玉幸多さんは、稲荷山で生まれ育った体験が、この農村の歴史研究に取り組む動機となったと言っています。

10月の下旬から6年生のみなさんと校長室で短い時間、お話をしました。将来

の夢を聞くと、「薬をもらいに行った時に、飲み方を優しく教えてくれたから」とか「栄養のバランスを考えてあげるなど子ども達のために何かしたい」「火事の際に、みんなを助けている姿を見て、いいと思った。」など、身近なことに興味を持ちそれをきっかけに考えているなあと感じました。



治田神社の名前の碑も児玉幸多さんが書きました

さて、冬休みにはたくさんの人や物と出会う機会があると思います。見たり聞いたりしながら自分の目標を持ちましょう。自分の将来について、考えてみることも楽しいですね。そして平成最後の3学期、目標の実現のための学期にしていきましょう。

(2学期終業式校長の話より)

□■2学期の図書館利用■□

2学期の図書館利用冊数

・ 4 2 冊

8月から12月19日までの図書館で貸し出した本の一人あたりの平均利用冊数は42冊となりました。登校日数が85日ですので、2日に1冊の割合で本を借りたこととなります。

冬休みにも本を読む時間を作って本に親しみましょう。

ボランティアの皆さんのおかげで!! 学習ボランティアのみなさん

四季の会の皆さんによる読み聞かせ

四季の会の皆さんによる読み聞かせが、会議室で行われました。学年毎お聞きすることができました。インフルエンザ流行により6年生は聞くことができませんでしたが、朗読、紙芝居、影絵など工夫を凝らして、子ども達のために読み聞かせをしていただきました。



合唱指導

毎年この時期に4年生に合唱指導を声楽の先生招いて指導をしていただいています。今回は担任の宮坂先生にも参加して歌ってもらいました。合唱の素晴らしさを子ども達も体験することができました。

味噌作り体験

2年生が12月7日に味噌作り体験をしました。保護者の皆さんにも参加していただき、大豆から味噌になるまでの工程に携わりました。食べられるには2、3ヶ月かかるそうです。



ほっこりしたこと

次のようなメールを地域の方からいただきました。

千曲市立治田小学校 御中

感謝御礼 メールで失礼致します。

今朝、治田小学校のお子さんたちに小銭入れを拾って頂きました。回覧板を隣の家に届けに行った午前7時20分頃の話です。我が家の前を登校していた小学生2名(低学年の女の子とその兄と思われる男の子)がうちの玄関先で立ち往生していました。

その子どもと朝の挨拶を交わし、どうしたかを聞くと、小銭入れが玄関付近に落ちていたとのこと「悪い人に持って行かれたらダメだと思い...」と玄関脇の植込みに置こうとしてくれていたところでした。

女の子が差し出した手元を見ると、私の小銭入れでした。「ありがとう。」とその場で二人にお礼は言わせて頂いたのですが、名前を聞かずに登校する姿を見送ってしまいました。

習字や個別指導のボランティアの皆さんにもおいていただきました!

寒い中の登校途中、少しでも早く学校に行きたかったはずなのに、財布を拾って親切な対応をしようとしていた彼や彼女の所作に、大変感銘を受けました。

親御さんや学校での日頃の教育の賜物だと思います。

【子供は地域の宝物】と実感すると共に、私も治小卒業生の保護者ですし稲荷山住民として、このような善良な行いが出来る子ども達が安心安全に過ごせる良い地域作りをしていこうと思います。

お財布を拾ってくださったお子さんへ...

本当にありがとうございました。

「治田の子どもは、治田で育てる」あたたかい地域の方々に支えられていること本当に感謝です。

年末を迎えて飲酒運転撲滅の非違行為防止研修をしました!!

7月、9月、10月と、教職員の飲酒運転や道路交通法違反などの事案が続いています。年末年始にお酒を飲む機会も多くなるこの時期に、もう一度飲酒運転根絶を意識した研修を行いました。飲酒を伴う会合に参加するには、どのようにしなければならぬかを再度確認しました。当事者やその家族だけでなく、教え子達を悲しませないよう、職員一丸となって飲酒運転撲滅、道路交通法を遵守します。

